

# 聖化とは何か

ロマ7：1～6

## イントロダクション

### (1) ここまでの確認

- ①「あなたは救われていますか」という質問
- ②聖書の救いとは、「神の怒り」からの救いである。
- ③普遍的救いの教理は間違っている。

### (2) 何を信じるのか。

- ①福音の3つの要素
- ②これに別の要素を加えることは、別の福音を語ることである。

### (3) 将来何が起こるのか。

- ①聖書が教える救いとは
  - \*義認（過去形の救い。罪責からの解放）
  - \*聖化（現在進行形の救い。罪の力からの解放）
  - \*栄化（未来形の救い。聖化の完成）
- ②今回は義認を終えたので、今回は聖化を扱う。

### (4) アウトライン

- I. 多くの人が陥る罫
- II. それが罫である理由
- III. 罫から解放される方法

このメッセージは、クリスチャンライフが、美しいものであることを学ぶためのものである。

#### I. 多くの人が陥る罫（ロマ7：18～19）

Rom 7:18 私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。

Rom 7:19 私は、自分でしたいと思う善を行わないで、かえって、したくない悪を行っています。

#### 1. 最大の悲劇は、律法を行うことによって聖化を達成しようとする事。

##### (1) この理解は、クリスチャンを律法主義に追い込む。

- ①律法主義的生活は苦しいので、やがては信仰の休業状態に陥る。
- ②特に、儒教的背景のある日本人、頑張り屋さんの日本人はそうなりやすい。

## 2. 聖書が教える聖化とは

(1) 義認も、聖化も、栄化も、すべて信仰により、恵みによる。

①頭の切り替えが必要である。これを「悔い改め」という。

(2) この箇所は、パウロの体験が土台になっている。

①これは、彼が救われてからの体験である。

②「私」という言葉が、18～19節だけで5回も出てくる。

③彼は、自分の体験を普遍的体験として語っている。

(3) パウロの姿は、当時のユダヤ人信者の典型的な姿である。

①彼らは新生したが、解放されていない。

②律法の下にいるが、聖霊の支配下にいない。

③「旧約聖書のクリスチャン」と呼んでもいいだろう。

④私たちは、そのような人を「ロマ書7章クリスチャン」と呼ぶ。

## II. それが畏である理由 (ロマ7:8)

Rom 7:8 しかし、罪はこの戒めによって機会を捕らえ、私のうちにあらゆるむさぼりを引き起こしました。律法がなければ、罪は死んだものです。

1. 「機会」という言葉が、罪と律法の間をうまく説明している。

(1) ギリシア語で「アフォルメイ」という。

①これは、軍事用語である。

\* base of operation (敵地に築く作戦基地)

\* 橋頭堡 (bridgehead)

\* 上陸拠点 (beachhead)

②律法は、罪という敵が、人間の性質に侵入する時の拠点である。

(2) 「むさぼってはならない」という戒めが与えられた。

①罪という敵は、その戒めを橋頭堡にして、私の内に侵入した。

②その結果、私はあらゆるむさぼりをするようになった。

③律法が命じることと正反対のことをしたくなるのが、罪の性質である。

## III. 畏から解放される方法 (ロマ7:1～6)

Rom 7:1 それとも、兄弟たち。あなたがたは、律法が人に対して権限を持つのは、その人の生きている期間だけだ、ということを知らないのですか——私は律法を知っている人々に言っているのです。——

Rom 7:2 夫のある女は、夫が活着ている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。

Rom 7:3 ですから、夫が活着ている間に他の男に行けば、姦淫の女と呼ばれるのですが、夫が死ねば、律法から解放されており、たとい他の男に行っても、姦淫の女ではありません。

Rom 7:4 私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。

Rom 7:5 私たちが肉にあったときは、律法による数々の罪の欲情が私たちのからだの中に働いていて、死のために実を結びました。

Rom 7:6 しかし、今は、私たちは自分を捕らえていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。

## 1. 律法の大原則

### (1) 2つの原則

- ①律法は、活着ている人に対して権限を持つ。
- ②律法は、死んだ人には権限を持たない。

### (2) 結婚関係の例話

- ①夫が活着ている間は、結婚の律法によって制約されている。
  - \*それを破れば、姦淫の女と呼ばれる。
- ②夫が死ねば、結婚の律法から解放される。
  - \*再婚しても、姦淫の女ではない。

### (3) 例話の適用

- ①信者は、律法に対して死んだ。
- ②今は、新しい御霊（聖霊）によって活着ている。
- ③もし今、律法による聖化を求めるなら、死んだ夫との関係が復活する。
- ④律法が働き始めるので、罪の性質が活発化する。

## 2. 私たちが置かれている状態

Rom\_8:1 こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

### (1) 福音を信じた人に起こったこと。

- ①信じた瞬間に、新生した。
- ②聖霊の内住が与えられた。
- ③聖霊のバプテスマによって、キリストと一体化させられた。

(2) 「キリスト・イエスにある者」という言葉は、私たちの新しい位置を示している。

- ① 「キリスト・イエスに結ばれている者」 (新共同訳)
- ② これを「位置的真理 (positional truth)」という。

(3) 位置的真理は、客観的真理である。

- ① 主観的に罪の責めを感じる余地はない。
- ② 神との平和を得ているのに、主観的には自分を責めている信者の悲劇。
- ③ 罪責感を強調するのは、神を助けようとする人間の愚かな行為である。
- ④ 葛藤があるのは、救われている証拠である。

### 3. 位置的真理の重要性 (ヨハ 15:5)

Joh 15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。

(1) イエスにとどまる人

- ① その人は、位置的真理を認識している人である。
- ② そうでない人は、イエスから離れ、自力で聖化を求めている人である。

(2) 律法に支配される理由はなくなったが、「肉の性質」に協力することがある。

- ① 罪を犯す度合いは、信者によってそれぞれである。
- ② しかし、信者が完全に「肉」によって支配されることはない。

結論：

(例話) 開いた窓

(1) 位置的真理

(2) 私たちは、キリストにあって死に、葬られ、復活した。

(3) 古い原則に対して死に、新しい原則によって生きるようになった。